

平成 30 年度 国際関係論専攻 調査研究助成金 調査・研究報告書

受給者：B1966756 Ke Yeja カヨウカ

所属：上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻博士前期課程 1 年

研究課題：中国におけるベトナム人女性移民のアイデンティティ問題

調査背景・先行研究

ベトナム・カオバン省に居住するヌン族が多数を占める。ベトナムヌン族は隣接する中国・広西チワン族自治区に住むチワン族と元来同系の民族であるが、中国・ベトナムの国境線により分断されている。[伊藤正子, 2000 : 51-86.]。中越の外交関係回復期に、数多くのベトナム人ヌン族人が中国に移住した。しかも、そのすべてが結婚移民女性であった。1999 年 3 月の中国広西省の国境地帯での調査によると、1995 年から 1998 年の間にヌン族女性 280 人が中国人男性と結婚するため移住して来ている [伊藤正子, 2015]。先行研究として、中国広西省におけるベトナム人結婚女性移民のアイデンティティ喪失問題についての研究[李娟, 2007]が存在するが、詳細な研究はほとんど存在しない。

本研究は、アジット・S・バラが概念化した「社会的排除」をキーワードとして考察していく。社会的排除は、シンボルによる排除[（シンボルとは、現象、出来事、行為、言葉など人間が知覚・経験できるものを通して、個人や社会集団に対し何らかの意味や意識、あるいは共属性を想起させるものをいう。）、社会的剥奪、主要な社会的諸制度への不完全な参加とも関連するもので [名和克郎, 2017]、シンボルによる排除としては、ベトナム人ヌン族女性はチワン族自治区の地元民から異民族として見なされていることがあげられる。しかも、彼女らは地元の人から「ベトナム人」「輸入貨」など蔑称を与えられている。[李娟, 2007]。しかも、彼女らは戸籍に入ることでもできず、医療保険などは取得できない。

彼女らはベトナム(カオバン省)で育ち、結婚のため広西チワン族自治区に移住するが、幼少期からチワン族(中国人)の男性と一緒に育ち、遊んでいたため、チワン族をほかのベトナム人男性と区別しておらず、自分の結婚を特別なケースだとは認識していない。

研究場所：中国広西省崇左市大新県碩龍鎮徳天村

調査地の概要：

広西省はチワン族が集住する場所である。徳天村は 1 4 2 戸 5 7 3 人である。旅行業は主な経済収入であり、村内に掛けられた横断幕はすべて中国語とチワン族語、あるいはベトナム語も入れた 3 言語で書かれている。

「地方誌」により、大新県は広西省チワン族自治区西南部において、ベトナムと隣接している。大新県におけるチワン族人口は全県人口の 97.2% に占めている。中国広西省の経済は接触するベトナムカオバン県より経済的に豊かであることにより、ベトナムヌン族と中国チワン族両民族はパスポート無しで双方の村を行き来することが認められている上、両民族は同文化言語のため、大新県に出稼ぎするベトナム人ヌン族が非常に多い。先行研究によると、そのすべてが女性である。

調査目的

以上のような背景により、今回の調査で申請者が明らかにしたいのは、民族帰属意識、国民帰属意識と妻、母、嫁などの女性役割は、それぞれ、ベトナム人女性移民のアイデンティティにどのように影響しているかである。

調査方法・調査内容

調査は 2019 年 8 月 11 日から 18 日まで、広西省崇左市徳天村内で 4 人のベトナム人女性と村内で働いた婦人主任に聞き取り調査を行った。今回の調査では、中国におけるベトナム人女性移民の民族帰属意識、例えば、彼女らのヌン族に対する認識（誇りとして表出するのか、隠すのか）、チワン族に対する認識、ヌン族とチワン族が同系民族ということについての認識、現在の生活状態の満足度（コミュニティ環境への満足度、人間関係への満足度、妻、母、嫁などとしての女性役割の満足度）などを中心にインタビュー調査を行ったとそして市内に図書館を利用して、地元の人口、歴史等の資料も収集した。

調査・研究報告（調査・研究によって何をどこまで明らかにしたか）

本調査はフィールドワークを通じて以下の三点をわかった。

まず中国における広西省徳天村に移住したベトナム人ヌン族女性の人数が多いことがわかった。中国边境政策により、ベトナム人は徳天村で商業活動ができるため、徳天村における中国人とベトナム人の接触は多い。国境の川を自身の筏に乗って越える中国人を商売相手にするベトナム人は多いし、中国側の岸辺を歩く中国人に対する商売を行うベトナム人も多い、中越が隣接する徳天の滝という観光地を取り抜けて、徳天村内で天秤棒でスナックを運搬するベトナム行商人や、路上販売する人、村内であるバイドをする人も多い。しかも多くは女性である。それ以外に、広西省徳天村における「老木棉」という国営リゾート老木棉ホテルにおける（多くは料飲部門（レストランとバー）と宴会部門と宿泊部門）働いているベトナムヌン族女性が数多くである。

次は、ベトナム人女性はベトナムヌン族・タイ族のネットワークが存在している。

最後は、徳天村特例により、両民族はパスポートなしで双方の村を行き来することが認められていること、両民族が文化言語相似こと、地理近いことから徳天村に移住したベトナム人女性は自分と地元の中国人は別々な人と思わないことが分かった。

民族について聞いたら、自分はベトナムチワン族と言った。しかも、自分の隣の人、親戚とか友達とかも中国人チワン族男性と結婚する人が多いから、自分は地元のチワン族は同じ民族だと思うことがわかった。

聞き取り調査のまとめ内容は以下である

①hoang（52、女、ヌン族。年齢は調査同時）

結婚移住として中国広西省崇左市徳天村に 20 年以上住んでいる。彼氏は地元のチワン族男性である。色々な原因で結婚しなかった同棲している。今は息子一人いる。息子に中国語とチワン族語だけ教えている。自分も何十年ベトナム実家に帰ることがなかった。今は姑と彼、息子の四人一緒に住んでいる。

②An（24、女、ヌン族。高校卒業。年齢は調査同時）

出稼ぎとして中国広西省崇左市徳天村に移住した。自分はベトナム人として地元のチワン族から排除されたことがあると述べた。自分はベトナム人ヌン族男性と結婚しているが、夫は仕事しないし、遊びばかりのことに不満がある。今娘一人いる。経済の原因で、今後娘は中国チワン族人男性と結婚することが望んでいる。

③phuong（25、女、タイ族。大学卒業。年齢は調査同時）

彼女は今未婚で、出稼ぎとして中国広西省崇左市徳天村に移住した。大学の専門は英語としても、中国で生活したいから徳天村に来て働きながら中国語を勉強する。

④nguyet（20、女、ヌン族。大学在学）

休みの時徳天村にバイトとか天秤棒とかをしている。今中国チワン族人彼氏がいる。彼女は今後の夫は今の彼氏かどうかはわからないけど、中国人と結婚して中国に生活したがると言った。理由としては彼女は中国でのチャンスがもっと多いと言った。民族について、彼女は自分と彼氏は別々の民族と思わない。ベトナムヌン族と中国チワン族は壁がないと思う。今の生活について彼女は満足していると言った。